

ダウン症児の 赤ちゃん体操

プラダウィリーなど
低緊張をもつ
赤ちゃんにも！

ダウン症の赤ちゃん体操は、兵庫県立塚口病院の小児科医師、藤田弘子氏が考案、30年にわたり実践してきた、赤ちゃん体操のプログラムです。筋緊張の弱さを持つ赤ちゃんに対し、ひとりひとりの発達を評価した上で、その発達段階に必要な体操をプログラムし、身体に負担のない形での正しい歩行の確立をめざします。

赤ちゃん体操で、全身の筋力鍛錬をバランスよくはかすることは、単に運動発達のみならず、全身の健康促進、さらには親子のコミュニケーションにとっても、とてもよい効果をもたらします。

どんな小さな赤ちゃんでも、目と目、声と声で会話することができます。赤ちゃん体操を通して、楽しく親子のコミュニケーションを楽しみながら、健康な身体をつくっていきましょう。



お子さんのことを気兼ねなく話せる、相談できる時間は貴重なもの。
“悲しみが喜びに
不安が希望に”
ご家族がそう思える心の支援を大切にしています。そのことが、お子さんにとっても良い環境に繋がると信じています。

赤ちゃん体操の流れ

始まりのあいさつ	体操が始まることを赤ちゃんに伝えます
手遊びふれあい遊び	手遊び歌を歌いながらふれあうことで赤ちゃんの緊張をほぐします
発達チェック	赤ちゃんの体の動きを観察し、発達段階をチェックします
体操	次の動作を目指して、体操をプログラムします。ご家族が自宅でもできるような体操のポイントをお伝えします
お話タイム	心配なことや聞きたいことなどご相談ください
終わりのあいさつ	体操が終わることを赤ちゃんに伝えます

※ 体操の前後は、ホールにてゆったり交流の時間をお過ごしください。

お申込み・お問い合わせ
(090)6395-7158
児童発達支援「ひかり」

